

展示品の  
みどころ

どう し き がた すいびょう  
銅信貴形水瓶



銅製 鑄造  
高27.6cm 胴径12.6cm  
鎌倉～南北朝時代(13～14世紀)  
奈良 朝護孫子寺

銅製の水瓶。本体は鑄造、轆轤挽きして形作り、注口、把手、蓋を設けている。低い高台を備えた胴部は、丸底で肩の張った形をしており、そこに鼓を立てるような形の頸部とともに本体をなしている。肩には牡丹で飾った基部から細長くのびる注口を取り付け、また湾曲する把手を頸部と胴部に留める。蓋には咆吼する獅子をかたどった鈕をかしめ留めする。蓋と把手はかつて蝶番でつながれ開閉できるようになっていたが、この金具は失われる。口縁部に天地逆の「信」の字が刻まれており、本品の由緒をよく伝えている。

水瓶は僧侶が仏道修行の生活の必需品として常に身近に備えた「比丘十八物」の一つに数えられる僧具であり、また仏前に浄水を供える供養具としても用いられた。用途や形態にしたがって水瓶は数種類の形式に分類することができ、遺品は奈良時代から多く残っている。

本品のように蓋と注口、把手のついた形式の水瓶は、鎌倉時代に形式が定まり、寺社をはじめ各地に伝世・出土した品がある。これを信貴山形あるいは信貴形水瓶と呼び習わすが、まさしく信貴山・朝護孫子寺に伝わる本品が、その名の由来である。

信貴形水瓶は愛媛・大山祇神社や広島・耕三寺、大阪市立美術館の品が高いが、それらと比較すると頸部のくびれなど器形に若干の崩れが見えている。しかしながら獅子や牡丹といった細部の造形は巧みで、鎌倉時代の雰囲気を残していることから、鎌倉時代末期から大きくは下らない頃に制作を位置づけられよう。

田澤 梓 (当館学芸部研究員)

◆4月9日～5月22日  
特別展「国宝信貴山縁起絵巻-朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝-」にて展示

に てん の うりゅう そう  
二天王立像



木造 彩色  
像高 伝持国天 109.4cm  
伝増長天 101.8cm  
平安時代(9世紀)  
奈良 室生寺

「女人高野」の名で知られる古寺、室生寺の仁王門楼上で発見された新出作品である。

ともに甲冑に身を固める武装形像で、伝持国天像は肉身を朱色に、伝増長天像は白色に彩っている。いずれも眼をかつと見ひらき、閉じた口はへしめ、忿怒の相を表す。足下の邪鬼も当初のもので、伝持国天の邪鬼は肉身を緑色に、伝増長天のそれは朱色とし、青鬼・赤鬼としている。

2軀ともに腰を左にひねり、顔を左(向かって右)に向けることから、造像当初から二天王像であったとは考えにくい。1軀は朱色、1軀は白色の肉身体であることを考慮すれば、四天王像のうちの2軀が残されたものであり、伝持国天は本来増長天、伝増長天は広目天であったのではないと思われる。

品質・構造を見ると、いずれも腕を除いた像の中心部を針葉樹(カヤカ)の一材から彫成して内刳しない堅固な構造である。腕も別材製だが大半を一材から造り出しており、その他の別材部は両肩から腰脇にかかる天衣遊離部程度にすぎない。

太造りで量感に富んだ体型が印象的である。腰を強くひねり、両腕を大きくかまえて、見得を切るようなポーズを示し、これに応じて袖先が小気味よく翻り、運動感に富んだ像容である。近似する作例として、京都・仁和寺の二天王立像(重要文化財)をあげることができる。仁和寺像は、仁和4年(888)の造立とみられる同寺金堂の日本尊阿弥陀如来及び両脇侍像と同時の作である可能性が指摘されるもので、このことから室生寺像の造立年代も9世紀末頃を中心に考えることができよう。

岩田 茂樹 (当館学芸部上席研究員)

◆4月29日～ 名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(4月～6月)

■開館時間 / 午前9時30分～午後5時  
・4月29日以降の毎週金曜日は午後7時まで  
※入館は、閉館の30分前まで

■休館日 / 毎週月曜日、4月8日(金)  
・ただし、5月2日は開館

●無料観覧日(名品展のみ)  
・5月5日(こどもの日)、5月18日(国際博物館の日)

観覧料金 特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」

|        | 一般     | 高校・大学生 | 小・中学生 |
|--------|--------|--------|-------|
| 個人(当日) | 1,300円 | 900円   | 500円  |
| 団体(前売) | 1,100円 | 700円   | 300円  |

※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は4月8日(金)まで。  
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。  
※特別展観覧券で名品展も観覧できます(4月29日以降)

観覧料金 名品展・特別陳列

|    | 一般   | 大学生  | 高校生以下 |
|----|------|------|-------|
| 個人 | 520円 | 260円 | 無料    |
| 団体 | 410円 | 210円 | 無料    |

※団体は20名以上です。  
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。  
※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額となります。  
※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。(子どもといっしょ割引)  
※青銅器館は4月28日までは無料、4月29日以降は有料となります。  
4月29日以降は、なら仏像館から入館してご覧いただけます。  
※なら仏像館は、改修工事のため4月28日まで休館中です。

●=国宝、◎=重要文化財



【交通案内】近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用)http://www.narahaku.go.jp/ (携帯用)http://www.narahaku.go.jp/mobile/

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。  
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

